

被災地支援活動学ぶ

真備 AMDA関係者が講演

東日本大震災から1年となるのを前に、国際医療ボランティア・AMDA（本部・岡山市北区伊福町）の被災地支援活動を学ぶ講座が3日、倉敷市真備町箭田の真備図書館で開かれた。

「3・11 AMDA被災地へ」と題し、AMDAボランティアセンターの竹谷和子参与が講演。受講生16人が聴いた。

竹谷参与はまず、震災翌日に仙台市に入っ
て以降、宮城、岩手県
の計4カ所で行った初
期段階でのAMDAの
緊急医療支援活動につ
いて説明。その後の復
興支援では「診療に加
え、避難所での歌やス
ポーツなどレクリエー



AMDAの被災地支援について学んだ講座

ションで精神的なケアも行った」と振り返り、さらに継続的、長期

的な支援として、医療従事者を志す被災者向けの奨学金を設けたり、現地の中学生を岡

山に招待、サッカー交流を行ったことも紹介した。

竹谷参与は「みんな切。いろいろなボランティアが何かやりたい、支援したい、と思う心が大きくなってみては」と、受講生

に呼び掛けた。

（三宅登久